

イギリスにおける大学入学制度の課題と改革動向： 国際バカロレアの認証による影響に焦点をあてて

花井, 渉
九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻：博士課程

<https://doi.org/10.15017/7378077>

出版情報：国際教育文化研究. 12, pp.17-28, 2012-06-29. Comparative and International Education,
Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



イギリスにおける大学入学制度の課題と改革動向

—国際バカロレアの認証による影響に焦点をあてて—

花井 渉

1 はじめに

近年、教育のグローバリゼーションに伴い、国境を越えて移動する子どもの教育の接続性が問題となっている。この教育の接続性の問題を解消する目的で、1960年代に開発された教育プログラム及び大学入学資格が国際バカロレア（International Baccalaureate、以下：IB）である。今日、このIBは世界141ヶ国の3,423校¹（2012年6月現在）において提供されており、IB取得による大学進学者も5万人（2009年時点）²に達しており、現在も世界中で増加し続けている状況にある。

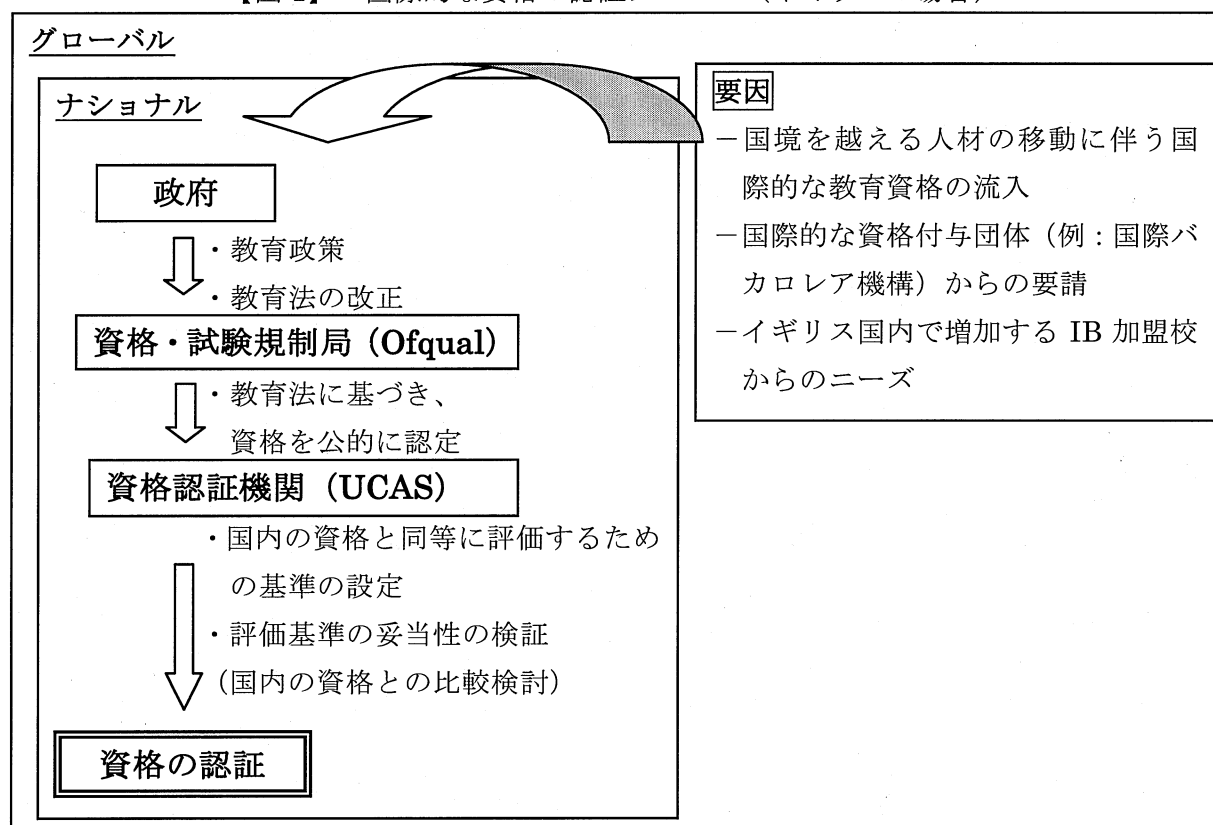
それら世界中のIB取得者の約14%がイギリス³の大学に進学しており、この割合はアメリカやカナダよりも多い。またイギリス国内では、近年Aレベルの「成績インフレ」(Grade Inflation)が生じており、その質への影響も叫ばれている（Bunnell, 2008）。それを一因として、Aレベルの代替資格として近年IBが注目されており、実際にイギリス国内の学校の中にはAレベルを廃止し、IBを提供する学校も増加傾向にある。またイギリスの大学・カレッジ入学センター（Universities and Colleges Admissions Service、以下：UCAS）では、2006年より全国統一資格ポイント換算表（UCAS Tariff、以下：UCASタリフ）をもとにIBを認証し始めており、イギリス国内のその他多くの資格と同等に評価し始めている。これにより、従来国境を越えて利用されることを前提に開発されたIBが、イギリスにおいては国内の大学入学資格として機能し、それを利用可能にするための資格認証システムの整備が行なわれているといえる。

しかし、レズニック（2012）は、グローバルな教育資格としてのIBが世界的に拡大する中で、各国の教育制度に影響を与えているため、それを受け入れる国（ナショナル）がまったく意図せずに、既存の教育制度をグローバルに「適応」（adaptation）させなければならない状態にあることを指摘している⁴。この点から、今日のイギリスでは、教育のグローバリゼーションという文脈の中で開発されたIBを認証するにあたり、積極的か消極的かは定かではないが、国内の制度をグローバルに「適応」させているといえる。

イギリスでは、IBの認証に際し、政府による教育政策策定や教育法（ASCL法）の改正が行われ、その教育法により資格・試験規制局（Ofqual）が設置され、UCASによってIBにポイ

ントをつけ、国内の資格と同等に評価するための認証プロセスを確立している。（図 1 参照）

【図 1】 国際的な資格の認証プロセス（イギリスの場合）



OECD（編）山形大学教育企画室（監訳）松田岳士（訳）（2011）をもとに筆者作成

しかし、この IB を含む新たな資格群の認証プロセスを確立したことにより、いくつかの新たな課題が浮き彫りとなった。その一つがイギリス国内の「大学入学資格の多様化」である。イギリス国内における資格は、伝統的に民間団体を中心に開発、導入され、その種類もアカデミックな資格と職業資格、そしてイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドそれぞれで異なるため、しばしば「資格のジャングル」（柳田:2004、松永:2005、谷口:2010）と呼ばれてきた。そのような背景の中で、IB の認証により今日のイギリスの資格制度は、より一層複雑さを増しているといえる。また、この大学入学資格の多様化は、大学入学プロセス⁵の多様化に直接的な影響を与えており、その制度を見直す必要性が生じている⁶。そこで、現在 UCAS は、その前身である「入学に関する大学中央協議会」（Universities Central Council on Admissions、以下：UCCA）創設以来 50 年以上も変わっていないイギリスの大学入学制度⁷の改革を行なうべく、「大学入学プロセスのレビュー」（Admission Process Review）を打ち出している。

本稿では、まずイギリスにおける現行の大学入学制度を概観する。次に、IB 認証を一因として生じている大学入学資格の多様化に伴って浮き彫りとなった大学入学制度の課題を検討にする。そして、現在 UCAS によって行われている大学入学制度改革の動向を明らかにする。

2 イギリスの大学入学制度

2 - 1 大学・カレッジ入学センター（UCAS）

UCAS は、1994 年にその前身である「入学に関する大学中央協議会」（Universities Central Council on Admissions、以下：UCCA）と「ポリテクニク中央入学サービス」（Polytechnics Central Admissions Service、以下：PCAS）、そして旧「大学入試常任協議会」（Standing Conference on University Entrance、以下：SCUE）の 3 つの団体が統合して設立された非営利団体（NPO）である⁸。

1960 年代初頭における UCCA と 1980 年代における PCAS 設置の必要性については、当時の背景として 2 つの理由があった⁹。1 点目としては、潜在的に大学進学希望者の多くが複数の大学に出願していたが、第 1 志望の大学のみに見れるという考慮すべき問題があった。すなわち、これは高等教育機関が、出願しても実際には現れない志願者のために枠を確保し、それ以外の入学する可能性のあった志願者が入学できない状態にあったといえる。2 点目としては、各高等教育機関によって入学者の募集期間や締め切り日が統一されておらず、それらの情報を志願者が出願する前に知らせる必要があったという点である。そこでこれらの団体を一つに統合し、先述の問題の解消を目指して設立された団体が UCAS である。

UCAS によれば、その目的（ヴィジョン）は、「高等教育へと人をつなげる中心としての UCAS」（UCAS is at the heart of connecting people to higher education）である¹⁰。つまり、UCAS は大学進学を目指す生徒と高等教育機関をつなぐ役割があるということである。また、UCAS のミッション・ステートメントによれば、その使命は大学への進学希望者と大学やカレッジ間のパートナーシップを強化し、すべての進学希望者の高等教育への平等な進学機会を達成することであるとされている¹¹。つまり、UCAS の最大の使命は、大学進学希望者と大学・カレッジ間の連携の強化である。現在のイギリスにおいて、ほぼすべての学士課程に在籍する生徒は、UCAS を通じて進学を希望する大学への出願を行っており¹²、大学と志願者双方への情報提供を通じて、大学入学プロセスの推進における中心的な役割を担っているといえる。

2 - 2 UCAS を通じた大学/カレッジへの出願方法

UCAS を通じた大学への出願は、6 つのプロセスをとおして行なわれる。そのため、イギリス国内の大学への進学を希望する生徒は、以下の 6 つのプロセスを通じて出願をすることになっている¹³。

①大学でのコースの選択：UCAS は、志願者に対して正しい大学/カレッジとコースを選択することは、その後の人生を大きく左右することであると強調し、多くの情報収集を行なうことを喚起している¹⁴。志願者は基本的には全国のどの大学にも出願をすることができるが、その際に各大学が提示している入学要件を知る必要がある。すなわち、特にイギリスの場合、オックスフォード大学やケンブリッジ大学のような一流大学などでは、入学要件として、取得すべき資格と達成すべき学習成果を提示し、それに加えて面接や小論文といった入学試験を課す場合がある。そのため、出願の際は、慎重な検討と情報収集が不可欠なのである。UCAS は、志願者が必要な情報を提供する役割を担っているのである。

②志望大学への出願¹⁵：進学を希望する大学/カレッジやコースを決めた後、志願者は、志望大学への出願を行なう。志願者は、医科、歯科、獣医科などの医学系のコースに出願する場合は最大4つのコースに、その他のコースに出願する場合は最大5つのコースに出願することができる¹⁶。ただし、ケンブリッジ大学やオックスフォード大学は、それぞれの大学につき1つのコースしか出願することができない。出願に関わる方法やアドバイスは、UCASによって行なわれる。

UCASを通じた大学への出願は、3回の締め切り日がある。医学系のコースやオックスフォード大学、ケンブリッジ大学への出願の締め切り日は10月15日、その他の大学/カレッジは1月15日、そして芸術やデザイン系のコースは3月24日となっている。また、海外からの志願者も同様に、医学系およびオックスブリッジは10月15日、その他の大学/カレッジは1月15日だが、芸術やデザイン系も1月15日が締め切り日となっている。

志望大学への出願は、すべてUCASのウェブサイトにおいてオンラインで行なわれる¹⁷。志願者はまず個人情報の登録を行ない、志望大学/カレッジを選択し、学歴/職歴を記入し、パーソナル・ステートメントと呼ばれる志望理由書を作成する。その後、志願者が在籍する高校の担任もしくは進路指導官の推薦状を提出し、仲介手数料¹⁸をUCASに支払う。これらすべての出願プロセスは、オンラインで行なわれるため、志願者は「1998年データ保護法」

(The Data Protection Act 1998)に基づいて、同意書に署名をすることが求められる。各志願者に関わる個人情報は、UCASによって最大3年間保持されることとなっている¹⁹。

出願された書類は、その後UCASによって志望大学に送られ、志願者にはUCASから必要書類の確認を知らせる受理メールが届けられる。そして、提出された出願書類に基づき、大学/カレッジにおいて書類審査が行なわれ、次のステップへと進むことになっている²⁰。

③大学/カレッジからのオファー²¹：出願書類は、大学/カレッジによる書類審査がなされ、いくつかの方法でオファーが届く。1つは、「条件付オファー」(Conditional offer)である。これは、大学/カレッジ側から志願者に対して、AレベルやIBなどの資格試験において、各大学/カレッジが定める基準を満たすことが条件となる。これは、例えばUCASタリフのポイント(例：Aレベルの3科目の合計が200ポイント)や特定の科目における成績(例：化学においてB以上、物理においてC以上)というかたちで条件が提示される。現在、イギリスにおける出願期間は、各資格試験の結果が公表される約6ヶ月前の出願となるため、各志願者は「予想される成績」(predicted grade)を出願の際に提出しなければならない²²。そのため、大学/カレッジ側も志願者から提出された出願書類をもとに、「条件付オファー」を提示することになる。

2つ目は、「条件なしのオファー」(Unconditional offer)である。これは、文字通り条件なしの合格となる。3つ目が、「出願書類の取り下げ」(Withdrawn application)である。取り下げは、志願者自身によるものと大学/カレッジ側によるものとがあるが、取り下げの理由は、UCASにおいて確認することができる。理由は様々であるが、大学/カレッジからのオファーに返信しなかった場合や面接に現れなかった場合などがある。そして、4つ目が「不合

格」(Unsuccessful application)である。

出願後の書類審査の進捗状況や結果は、すべて UCAS の「トラック」(Track) と呼ばれるウェブサイトログインして閲覧することができるようになっている²³。

- ④資格試験結果の通知²⁴: 通常、志願者が資格試験結果の通知を受けるのは、A レベルの場合、8 月の第 3 木曜日である。UCAS は、すでに出願された書類と志願者によって登録された資格付与団体から届けられた志願者の結果を照合し、UCAS タリフに含まれる資格の場合、その結果は自動的に志望大学へと送られる。

その後、あらかじめ志望大学/カレッジから与えられたオファー(条件)を満たしている場合、そのまま合格となる。もし、条件の点数にわずかに届かなかった場合は、大学/カレッジによっては条件を下げ、志願者を合格にする場合もある。また、同じ大学/カレッジ内において、志願者の試験結果に見合う他のコースへの出願を、大学/カレッジ側から進められる場合もある。また、第一志望の大学の条件には届かなかったが、第二志望の大学の条件を満たしている場合、その大学に進学することができる²⁵。

- ⑤次のステップ²⁶: ここでは、資格試験の結果を受け取った後の選択肢とその手続き方法が記されている。資格試験の結果が大学/カレッジ側からのオファーを満たしている場合は、志望大学への進学道が開ける。しかし、出願後に他の大学やコースへの進学を希望する場合、「取り消し」(Clearing)を行なうこともできる。その場合、再度他の大学/カレッジやコースに出願するため、追加の仲介手数料がかかる。また、出願時に提出した「予想される成績」よりも良い成績を修め、志望大学をより高いレベルの大学に上げたい場合は、「調整」(Adjustment)を行なうことができる。その場合、新たに出願する必要がある、当初第一志望の大学から提示された条件を上回る成績を修めていなければならない。しかし、志願者からのこうした出願を受け入れるかは、アドミッション・オフィサー(大学入学担当官)の判断に委ねられている。

- ⑥大学/カレッジへの進学手続き²⁷: ここでは、大学/カレッジへの進学準備に必要なことや授業料、奨学金、生徒自治会(Student union)などについて、入学手続きや大学での生活の送りかた、お金の管理方法まで生徒生活を始めるために必要な情報が提供されている。

以上の点から UCAS における志願者に対する大学/カレッジへの出願プロセスは、出願から大学/カレッジと志願者のマッチング、志願者への書類審査の進捗状況や結果の提供、成績通知後の志願者への対応(「取り消し」や「調整」への対応)、そして大学生活の手引きまで、個々の志願者が円滑に大学に進学できるように、高等教育機関側と志願者の間の橋渡しとしての役割を担っているといえる。

しかし、2011 年 10 月に UCAS によって出された報告書²⁸によれば、現行の UCAS を通じた大学入学プロセス(Admission Process)には、いくつかの改善すべき点が報告されており、

2014 年までの大卒の完成と 2016 年までの完全な移行を目指した、大学入学制度の改革を行なおうとしている。次節では、この大学入学制度改革の必要性としてあげられる現行の制度の課題を検討する。

3 イギリスの大学入学制度の課題

UCAS によって運営されている現行の大学入学制度は、政府からは独立しているものの、イギリス国内において 1950 年代以降から今日まで大学進学にかかる中心的な役割を担ってきた。UCAS による説明では、現行の制度はオックスフォードやケンブリッジなどの伝統的なアカデミック・ルートから医学部や獣医学部などのような専門職養成ルートまで、多様な出願方法や日程に対応している²⁹。また、同様に「非伝統的な資格」取得によるイギリスの大学への出願にも対応していると記されており³⁰、ここに IB も含まれていると考えられる。

しかし、UCAS の前身である UCCA 創設以来、現行の大学入学制度は 50 年以上も変わっていない。現行の制度は、元来国内の伝統的な資格（A レベルやスコットランド上級資格）を利用した大学進学希望者を対象としており、非常にドメスティックな制度であった。しかし、今日の UCAS を通じてイギリスの大学進学を目指す志願者の 16%が海外からの生徒であり、45%が A レベルやスコットランド上級資格以外の資格を利用して出願している³¹。そのため、現行の制度は、伝統的・非伝統的な資格を含む、多様な資格を利用した大学入学プロセスに対応するための最適な制度とは言い難い点が指摘されている。例えば、多くの若者は、まだ自分の将来の進路について考え、大学や専攻に関する理解が十分にできていない段階で志望大学や専攻を決めなければならない。UCAS の調査では、大学に出願する生徒の半数が、自分の関心とは異なる専攻を選んでおり、20 万以上の専攻・コースにおいて大学からのオファーが出された後に取り下げ（withdraw）もしくはキャンセルされていることが明らかになった³²。これは、大学にとっては取り下げが行なわれることにより、本来入学を希望していた生徒が入学できず、定員の確保も困難な状態になるといえる。また、生徒にとっては自らが取得しようとしている資格（例えば A レベルや IB）試験の成績が開示される以前に、大学への出願をしなければならない。そのため生徒は、出願の際に各高校の進路指導担当官や担任の先生と相談し、資格試験で「予想される成績」（predicted grade）を提出しなければならないため、十分に進路や大学の下調べをすることなく出願せざるを得ない状況にある。

また、海外からの出願者は、現行の制度がイギリスの学校歴で設定されているため、出願日程が異なり、不利な状況に立たされるケースもみられる。また、イギリスの大学におけるグローバル人材の獲得戦略をたてる際に、現行の制度が他国との競争の妨げになっているという批判もなされている。そして、多くの国際的なエージェント（資格付与団体や試験団体）も、現行の制度は柔軟性を欠いており、それぞれが提供する資格を利用したイギリスの大学への進学ができない状態にあると指摘している。現在、IB に関してはイギリスの資格・試験規制局（Ofqual）による公的な認定と UCAS タリフ³³による認証が行われており、国内の大学入学資格として機能しているが、今後その他の国際的な大学入学資格に対応するためのより柔軟な大学入学制度への改革が必要とされていると考える。

UCAS は、現行の大学入学制度の課題として、以下の 8 つの点をあげている³⁴；

- ①多くの出願者は、十分に自らの進路、関心、志望大学について考える時間を与えられないまま、志望大学の選択を余儀なくされている。
- ②「予想される成績」(predicted grade) や「取り消し」(clearing) は、制度自体を複雑化させており、多くの出願者への透明性を欠き、高等教育機関にとって能率が悪く、手間のかかるものになっている。
- ③現行の制度は、一部の出願者や進路指導担当者にとって有効であるため、今日効果的なアドバイスを得られるものとそうでないものとの間に顕著なディバイドが見られる。
- ④現行の大学入学制度では、資格試験の成績が出る 6 ヶ月前に志望大学を決めなければならない。
- ⑤現行の大学入学制度は複雑で多くの出願者にとって理解しにくい。
- ⑥高等教育機関によって採用されている運営上の実践や大学入学戦略 (admissions strategies) の透明性が低い。
- ⑦「取り消し」(clearing) システムは、多くの出願者や高等教育機関にとって非能率的かつ複雑であり、ストレスフルである。
- ⑧現行の大学入学制度は、「ワンサイズ」システムであり、留学生、パートタイムの生徒や社会人生徒などの非伝統的な出願者にとって効果的なシステムではない。

ここでの強調点として、大学進学を希望する生徒は、各資格試験の結果が出る 6 ヶ月前に志望大学を決めなければならない点、出願の際に「予想される成績」(predicted grade) を提出しなければならない点があげられる。また、その「予想される成績」をもとに大学入学戦略やアドミッション・ポリシーを立て、オファーを出さなければならない高等教育機関は、透明性を欠いており、アドミッション・ポリシーも年によって変化するため、出願者にとって非常に分かりにくい制度になっている。

また資格の多様化により、各資格試験の日程や成績開示の時期が異なるため、出願者と大学入学担当官双方にとって複雑で分かりにくい制度になっている。例えば、A レベルの資格試験の結果は毎年 8 月の第 3 週目に出る一方、IB や BTEC の成績は、毎年 7 月の第 1 週目には分かるため、ここだけでも 6 週間のギャップがある。この結果、出願時期も各資格試験によって異なるため、高等教育機関側も多様な資格を利用した出願に対応しなければならない。

本来、後期中等教育段階修了時の資格試験を受けてから大学進学までの円滑な大学入学制度の確立が目的として UCAS が設置されたものの、今日の資格の多様化により、各資格試験の日程や成績開示の時期にズレが生じており、現行の制度では対応しきれない状態にあるといえる。

そこで UCAS は、これらの課題を克服し、今日の多様なニーズに見合った大学入学プロセスを実現するため、その制度の改革を提案している。UCAS による改革案の中で強調されている重要な改善策が「資格取得後による出願」(Post-qualifications applications、以下：PQA) というものである。次節では、現在 UCAS によって提案されている大学入学制度改革の目的と新たな制度、PQA に期待される効果や改革が提言する新たな大学入学制度について検討する。

4 大学入学制度の改革動向

4 - 1 改革の目的と新たな制度

この UCAS による大学入学制度改革の目的は、イギリスの高等教育システムにおける入口にあたる入学プロセスを再検討し、現行の制度を今日の資格の多様化に対応する形に修正することである。この改革で UCAS は、大学進学希望者が志望大学に出願する際に、「予想される成績」(predicted grade) をもとに出願するのではなく、資格試験の正式な成績 (known grade) をもとに出願することができる制度にすることを提案している³⁵。UCAS による計画では、2014 年に現行の制度の大幅な改善を行ない、2016 年までに新たな大学入学制度を構築するとしている³⁶。

この改革は、国家のイニシアティブのもとに行われることとなっているが、UCAS はこの改革がイングランド、ウェールズ、スコットランドおよび北アイルランドにおける多様で複雑な試験制度、学校やカレッジの日程に対応するものにしなければならないという点を強調している。そこで、重要なキーワードとなるのが「資格取得後による出願」(PQA) である。次項では、この PQA モデルとその導入によって期待される効果について考察する。

4 - 2 PQA モデル

UCAS による現行の大学入学制度のレビューを通じて、特に多く聞かれた考えとして、資格試験の結果(成績)が開示された後に、志望大学への出願を行なった方がより公平性が保てるという考えである。これが PQA モデルという考え方であり、これまでも多くの報告書や文書の中で広く提唱されてきたモデルである³⁷。しかし、これまでこの PQA モデルの導入に向けた具体的な施策は行われてこなかった³⁸。UCAS は、現行の大学入学制度のレビューを通じて、この PQA モデルを導入する必要性があり、その導入により、前述の課題(第 3 節参照)を解決することができるとしている³⁹。すなわち、これまでの大学入学制度では、国内の伝統的な資格(A レベルやスコットランド上級資格)を利用した出願を想定していたが、今日の資格の多様化に伴う大学入学プロセスやニーズの多様化への対応に、この PQA モデルの導入が効果的であると考えられている。

この PQA モデルを導入するために、UCAS はイギリスの伝統的な A レベル試験の日程を 3 週間早めることを提案している。その提案の中で、UCAS はこの変化が IB の試験やスコットランド上級資格試験日程には影響がないようにすることが明記されている⁴⁰。また、A レベル試験の日程を 3 週間前にシフトさせることにより、その試験結果は 7 月の第 1 週目には開示されることになり、これは IB やウェールズ・バカロレアの試験結果の開示と同じ時期となるとされている⁴¹。この点から、この改革が資格の多様化に伝統的な資格試験に対応して変化することになっており、IB もこの変化の一因となっているといえる。

4 - 3 PQA モデル導入後に期待される効果

PQA モデル導入後に期待される効果として、UCAS (2011a) は以下の 4 つをあげている⁴²；

①公平性の確保

PQA モデルを導入することにより、これまで出願の際に「予想される成績」を提出し、高等教育機関側はそれをもとにオファー（入学要件）を出していたものが、すべての資格試験の結果が開示された後に出願するため、志願者は同じスタートラインに立つことができ、高等教育機関側もオファー（入学要件）が決めやすくなる。

②ユーザーの拡大

PQA モデル導入により、公平性が高まり、その結果自分の成績に見合った大学に出願することができるため、「取り消し」(clearing) も減ることが期待される。これにより、制度自体が簡素化され、より透明性の高いものになるため、国内だけではなく、海外からこの制度を利用するユーザーが拡大すると考えられる。

③能率の向上

PQA モデル導入により、公平性が高まり、これまで「予想される成績」をもとに各志願者にオファーを出さなければならなかった高等教育機関側の作業が大幅に削減され、志願者側も自分の成績に見合った大学に出願することができるため、滑り止めの大学の選択 (“security choice”) をする必要がなくなる。

④国際的な学生の獲得

これは、上記②とも関連するが、PQA モデル導入により、これまで A レベルなどの伝統的な資格試験の日程をベースとなっていた制度が、その他の資格試験の日程に合わせるかたちで変化するため、国際的な学生が UCAS を通じた志望大学への出願がしやすくなる。これは、現教育省によって 2010 年 11 月に出された教育白書『教授の重要性』(The Importance of Teaching) における海外からの新たなプロバイダーの参入機会拡大も可能にするものと考えられる。

5 おわりに

以上のように、大学入学資格の多様化に伴い、現行の大学入学制度の課題が浮き彫りになった。そこで、UCAS は大学入学制度改革を提案し、PQA モデルの導入によって課題を解決することができるとしている。

特にこの PQA モデル導入に伴い、伝統的な資格である A レベルの試験日程を 3 週間早く実施し、IB やスコットランド上級資格試験と合わせることで、これまで「予想される成績」による志望大学への出願ではなく、正式な試験結果をもとに出願することが可能になる。これにより、公平性が確保でき、高等教育機関側の作業能率も向上させることができ、そしてこれまで以上に多くのユーザーを国内外からこの制度に取り込むことができると考えられる。

ここで注目すべき点は、伝統的な A レベルの試験日程を IB の日程に合わせている点である。これまでの制度は、ドメスティックなものであったため、それを国際的な水準に合わせることで、より多様な資格を利用した大学入学プロセスに対応する制度に適応しているといえる。これは、レズニック (2012) のいう既存の教育制度のグローバルへの「適応」(adaptation) であると考えられ、その一例であるといえる。

今後、この UCAS によって提案されている改革が本格的に実施されるにあたり、UCAS の動向だけではなく、それが政府レベル、資格付与団体（特にこの改革で影響を受ける A レベルの

資格付与団体)、学校レベルにどのような影響を与え、各レベルでどのように対応するのかを検討する必要がある。それにより、この改革がイギリスの大学入学制度全体にどのようなインパクトを与えることになるのかを明らかにすることができると考える。

【引用・参考文献】

日本語文献

1. OECD (編) 山形大学教育企画室 (監訳) 松田岳士 (訳) (2011) 「学習成果の認証と評価－働くための知識・スキル・能力の可視化」 明石書店
2. 谷口雄治 (2010) 「英国の NVQ から QCF への経過と背景について」『職業能力開発研究』第 28 号 p.3 : 26-27
3. 松永由弥子 (2005) 「イギリスの職業資格制度」『生涯学習 e 事典』、日本生涯教育学会
4. 柳田雅明 (2004) 「イギリスにおける「資格制度」の研究」 多賀出版

英語文献

1. Bunnell, T. (2008) 'The International Baccalaureate in England and Wales: the alternative paths for the future', *Curriculum Journal*, Vol.19, No.3, pp.151-160
2. Resnik, Julia (2012) "The Decentralization of Education and the Expansion of the International Baccalaureate", *Comparative Education Review*, Vol.56, No.2
3. Universities and Colleges Admissions Service (2011a) *Admission Process Review Consultation*, UCAS
4. Universities and Colleges Admissions Service (2011b) *Little Guide to Higher Education*, Cheltenham, UCAS

¹ <http://www.ibo.org/general/who.cfm> (2012 年 6 月 25 日付確認)

² Resnik (2012) p.253

³ 本稿では、イングランドを指す。

⁴ op. cit., p.252

⁵ 本稿における大学入学プロセスとは、大学進学希望者が UCAS を通じて志望大学に出願し、大学側からオファーが提示され、それを目標に資格試験を受験し、その結果をもとに大学進学を行なう一連の流れを指す。なお、このプロセスは大学入学制度に含まれるものである。

⁶ Universities and Colleges Admissions Service (2011a), p.2

⁷ イギリスでは、後期中等教育段階修了時に受ける資格試験によって取得した資格が、後期中等教育修了資格として認められるのと同時に、大学入学資格としても認められるため、日本をはじめとする受験型社会で実施されるような大学入学試験はないため、本稿の文脈では「大学入学制度」とする。

⁸ The Independent(電子版)(1998) "Go Higher: The funds that finance UCAS", 18 October 1998, (2011 年 11 月 4 日付検索)

⁹ Ibid., 7-8

¹⁰ <http://www.ucas.com/documents/corporate/corporatestrategy2010-2015.pdf> (2011 年 11 月 23 日付ダウンロード) p.5:1-2

¹¹ Ibid., 17-20

-
- ¹² Universities and Colleges Admissions Service (2011b), p.6:12-14
<http://www.ucas.com/documents/ucasguides/littleguide2012.pdf> (2011年11月13日付ダウンロード)
- ¹³ http://www.ucas.com/he_staff/admissionsexplained/outline/sixsteps (2011年11月13日付確認)
- ¹⁴ <http://www.ucas.com/students/choosingcourses/> (2011年11月13日付確認)
- ¹⁵ <http://www.ucas.com/students/applying/> (2011年11月13日付確認)
- ¹⁶ Universities and Colleges Admissions Service (2011a), p.12:51-52
- ¹⁷ <http://www.ucas.com/students/apply/> を通じて志望大学への出願ができる。(2011年11月13日付検索)
- ¹⁸ 仲介手数料は、1つ以上のコース、大学/カレッジに出願した場合、22ポンド(約2700円)、1つのコースのみへの出願は、11ポンド(約1360円)を支払うこととなっている。
- ¹⁹ <http://www.ucas.com/students/applying/howtoapply/dataprotectionact> (2011年11月13日付確認)
- ²⁰ <http://www.ucas.com/students/applying/whatwedowithyourapplication> (2011年11月13日付確認)
- ²¹ <http://www.ucas.com/students/offers/> (2011年11月14日付確認)
- ²² 近年、この現行の大学入学プロセスの問題点を指摘する動きがあり、大学入学制度改革が求められている。
- ²³ <http://www.ucas.com/students/track/> (2011年11月13日付確認)
- ²⁴ <http://www.ucas.com/students/results/> (2011年11月14日付確認)
- ²⁵ <http://www.ucas.com/students/results/whatsnext> (2011年11月14日付確認)
- ²⁶ <http://www.ucas.com/students/nextsteps/> (2011年11月14日付確認)
- ²⁷ <http://www.ucas.com/students/startinguni/> (2011年11月14日付確認)
- ²⁸ Universities and Colleges Admissions Service (2011a) *Admission Process Review Consultation*, UCAS
- ²⁹ Universities and Colleges Admissions Service (2011a), p.30:5-8
- ³⁰ Ibid., p.30:8-10
- ³¹ Ibid., p.27:62-70
- ³² Ibid., p.30:20-26
- ³³ UCAS が作成した全国統一資格ポイント換算表。
- ³⁴ op. cit., p.2:23-35 および p.5-6
- ³⁵ Ibid., p.2:36-39
- ³⁶ Ibid., p.2:40-47
- ³⁷ Ibid., p.30:31-33
- ³⁸ Ibid., p.30:33-38
- ³⁹ Ibid., p.30:41-45
- ⁴⁰ Ibid., p.31 および p.41
- ⁴¹ Ibid., p.42:49-52
- ⁴² Ibid., p.35-39

The Issues which the Admission Process in England is facing and its Trend of Reform: Focusing on the impact after recognising the International Baccalaureate

Wataru HANAI

This paper attempts to clarify the problems which admission process in England is facing today, especially after the recognition of the International Baccalaureate (IB) in 2008 and how Universities and Colleges Admissions Service (UCAS) is trying to reform the current system.

Founded in 1968, IB has spread throughout the globe and currently there are 3,423 IB World School in 141 countries. Out of these schools, over 14% of the IB holders are coming into England to study at universities. Also after the scandal which revealed the “Grade Inflation” of the traditional A-Levels, IB turned out to be seen as an alternative for the A-Level. So in England, there is a certain situation where IB holders not only from abroad but from high schools within the country using the IB as a university entering qualification. And the British qualification system has recognised the IB as a valid qualification for entering universities in England.

But UCAS found out that the current admission system was not benefiting all applicants since the system hasn’t changed for over 50 years. So UCAS has introduced a reform for the current system. There were several findings which needed change and the biggest issue was that applicants had to apply with a “predicted grade”. Since the number and types of qualifications has increased over the years, each qualification had different exam schedule and dates for receiving the results, so there were problems of keeping fairness among these varieties of qualifications.

UCAS has introduced an idea which is known as the “Post Qualifications Applications” (PQA) model to solve these issues. According to UCAS, this PQA model will be implemented by shifting the examination date for A-Levels 3 weeks earlier and that will be the same schedule with the IB. And by implementing this PQA model, all applicants will be able to apply to universities with known grades and not predicted grades. Also it will likely to widen participation and increase the number of applicants from abroad seeking to study at universities in the UK.

As a conclusion, it can be seen that after recognising the IB in the qualification system, it led to find out that the current admission system needs change and as a result, the traditional A-Level exam adjusted itself to the IB examination schedule and is seeking to create a simple, transparent and flexible admission system for new qualifications.